

# 障害者スポーツの認知度に関する研究 —障害者スポーツ関連授業の受講有無の違いから—

高島 梓 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 河西 正博

キーワード：障害者スポーツ，認知度，授業の受講有無

## 1. 緒言

永浜 (2013) によれば、「障害者スポーツ」を知っている学生は 97.3% にのぼっており、言葉そのものの認知度は非常に高くなっている。その一方で、競技種目の認知については、メディアで取り上げられる機会が比較的多い車いすバスケットボール・車いすテニス等の認知度は高い一方で、その他の種目は低い割合となっていることから、障害者スポーツの種目、競技者等の具体的なイメージが多く、学生にはできていないものと考えられる。

そこで、本研究では、体育系大学の所属学生を対象としたアンケート調査から、障害者スポーツ関連授業の受講有無による障害者スポーツの認知度および意識の違いを明らかにした。

## 2. 研究方法

上記の課題を検討するため、B大学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。なお、回収数は 109 件であった。

## 3. 結果と考察

### 1) 障害者スポーツの認知について

種目の認知については、車いすテニス (77.1%)、次いで車椅子バスケットボール (76.1%) であった。メディア等の露出が多いことから車いすテニスの認知度は高い傾向にあり、車椅子バスケットボールに関しては、B大学では障害者スポーツに関する授業があり、その場で車椅子バスケットボールを体験する機会があることから認知度が高いものと考えられる。この2種目は、オリンピックにも立位種目として含まれているので、他のパラリンピック独自種目と比べ認知されやすいのではないだろうか。

### 2) 障害者スポーツ関連授業の受講有無と認知度・意識の関係性について

障害者スポーツ関連授業の受講については、受講有群 60 名 (55.0%)、受講無群 49 名 (45.0%) であった。

障害者スポーツに関する意識について、「障害者スポーツは勝ち負けにこだわって競技的

に行うものである」の項目は、受講有群の方が「そう思う」の割合が多く、これは、関連授業には実技が含まれており、実際に障害者スポーツを体験し、その迫力や魅力を体感したことで、競技的なものとしてイメージしたのではないかと考えられる。

障害者スポーツの参加対象者に関わる項目については、授業の受講有無により大きな差はみられなかったが、受講有群の方が「障害者スポーツを自分たち自身も楽しめるもの」として認識しており、「障害者のための」スポーツではなく、一つのスポーツとして認識しているものと考えられる。これらのことから、障害者スポーツに関わる授業の受講は、障害者スポーツを「障害のある人のためのスポーツ」というよりも、身近な一つの「スポーツ」として認識させる効果があるものと考えられる。

### 4. おわりに

調査結果から、障害者スポーツという言葉そのものの認知は広くされているが、具体的な競技者像、参加対象障害の認知はされておらず、障害者スポーツに対する具体的な理解は進んでいないことが明らかになった。また、受講有群において、障害者スポーツは「障害者だけのものではない」というイメージがされていることが明らかになり、障害者スポーツ関連授業の受講における効果の一端がみられた。

今後の課題として、調査対象者が少数であったために十分な考察が行えなかったことが挙げられる。今後、幅広い対象者に調査を行い、より詳細な考察を行ってきたい。

### 引用・参考文献

永浜明子 (2013) 「アダプテッド・スポーツ」「障がい者スポーツ」に対する大学生の認知度および意識レベル—アダプテッド・スポーツ導入に向けた授業自己評価の観点から (第Ⅲ報) —. 大阪教育大学紀要. 61(2) : 48-55.